



動物レスキュー通信

2019年1月 第68号 (平成31年1月1日発行)

発行元
一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

皆様、新年明けましておめでとござい
ます。本年も宜しくお願ひ致します。もう
まもなく、平成というひとつの時代が終わ
るうとしています。昨年の「今年の漢字」は
「災」というくらい、多くの災害に見舞われ
ました。これは2018年だけではなく、平
成時代全てを振り返っても共通する漢字の
ように思えます。私自身の関わりの深い事
だけでも阪神淡路大震災や東日本大震災、
北海道胆振東部地震があり、他にも広島土
砂災害、熊本地震、西日本豪雨、猛暑に豪雪
そして火山の噴火、台風被害など、災害が
起こらなかつた年はなかつたのではないか
という位、毎年のように被害が出ていまし
た。今後は南海トラフ地震や首都直下型地
震が高い確率で起こるといふ予測もあり、
誰もが災害に見舞われる可能性があり、日
本には災害のない、安全な場所はないと言
つても過言ではありません。一般社団法人
ペットフード協会の調査によると飼育
全国犬猫飼育実態調査結果によると飼育
世帯数は犬が約15万世帯、猫が約55
4万世帯、犬猫合計で約70万世帯に
も上ります。もちろんこの犬猫飼育世帯も
例外ではなく、いつ被災者になってしまう
かもしれませぬ。2011年3月11日に発
生した東日本大震災では大きな地震と津
波が街を襲い、更には原子力発電所の事故
も重なり、それまでの日本では想像も及ば
ないほどの大きな被害をもたらしてしま
いました。被災者の方々は緊急避難を余儀
なくされ、犬や猫のコンパニオンアマルだ

万が一の時に備える

災害対策について



けではなく、家畜なども置き去りにして避
難するしか手立てがなく、飼い主を失った
動物が街中を放浪してしまっていました。
愛犬、愛猫と避難する事が出来た飼い主さ
んもいましたが、その扱いに苦労するなど
実に様々な問題が起っていました。

教訓を踏まえて

この事を教訓に、環境省は大規模な災害
時に自治体や現地の動物救護本部などが
動物救護対策を検討する際の参考となる
ように、2013年6月に「災害時における
ペットの救護対策ガイドライン」を策定し、
災害時には飼い主さんの責任によるペット
の「同行避難」を基本とする事を示しまし
た。その後、2015年4月には熊本地震の
発生時には、この「災害時におけるペットの
救護対策ガイドライン」が多くの自治体で
活用され、又飼い主さんの間では「同行避
難」も浸透しており、愛犬、愛猫と一緒に避
難所に避難してきた被災者がたくさんい
ました。しかし、せっかく同行避難を行って
も避難所には動物が苦手な人や動物にア
レルギーのある人がいるため、誰でもが動
物との共同生活を送る事が出来るわけ
はないため、同行避難先での犬猫の受け入
れや一時預かりなど、新たな課題が生まれ
ました。そこで2018年2月には新たに「
人とペットの災害対策ガイドライン」が策

定されました。こちらでは首都直下型地
震のように人口が密集している大都市で
の災害時には、災害時に被災者が集中し、
指定避難所への収容が困難になる可能性
がある場合、強固な建築物などに居住す
る住民に対して、又、一時的にはより安全
な場所に緊急に避難するが、その後自宅
の安全性が確認され、自宅で継続して居
住できると判断した場合に、避難所など
のような他所ではなく、自宅で避難生活
を行うなど、可能な限り在宅での避難も
推奨されています。このように、災害時の
愛犬、愛猫との災害対策としては飼い主
さん自身が自分と愛犬、愛猫の身を守る「
自助」が基本とされています。この自助に
次いで近隣の「コミュニティ」などで互いに助
け合う「共助」、そして最後に行政機関に
よる救助や支援を受ける「公助」となりま
す。このガイドラインには「災害時に行わ
れる行政機関による支援(公助)では、人の
救護が基本であることから、災害の発生当
初には、ペットフードや水などの支援です
ら困難なことが多い。飼い主はこうした
場合にあっても、ペットの安全と健康を守
り、他者に迷惑をかけることなく、災害を
乗り越えて、ペットを適正に飼養管理して
いく責務を負っている。したがって普段か
ら、災害時に必要となる備えをし、地域社
会に受け入れられるように、ペットを適正
に飼養管理する必要がある」とされてい
ます。公助は飼い主さんの早期の自立を
支援するもので、この事は愛犬、愛猫の健
康と安全を確保する事にも繋がります。
要するに災害時に愛犬、愛猫の身を守る
事が出来るのは飼い主さんだけだと言っ
て事です。その為にも日頃からの備えが本
当に大切だと言っ事です。この備えに関し
ての詳しい事は、次回以降に御紹介させて
頂きます。(詩月)